

早稲田大学 教育学部
2026 年度 入試問題の訂正内容

科目：国語

●問題冊子 10 ページ：大問(二) 問 8

設問に対する適切な解答がありませんでした。

当該箇所の設問につきましては、解答の有無・内容にかかわらず、受験生全員に得点を与えることといたします。

以上

国
(問題)
語
2026年度

〈2026 R08200015 (国語)〉

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～18ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。
5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

次の文章は、ビッグデータやAIなどの技術と民主主義との関係について述べたものである。これを読んで、あとの問いに答えよ（設問の都合上、一部本文を改めている）。

ポストトウルースと呼ばれる時代を生きる私たちは、けれどもそれ以前の世界が単純に事実を共有できていたわけではないことも知っている。それでも、技術が進む限り虚偽もまた限りなく増殖する。その無数の虚偽を相手に戦い続けることは、有限な人間には耐えられない。平等な「1」を与えてくれるテクノロジの無謬性を前提とした上で新たな時代の民主主義を語ることは、その期待が大きければ大きいほど脆弱さを併せ持つ。その期待が裏切られたとき、それは避けがたく民主主義への失望とシニズムを引き起こすだろう。

だから私たちは、メディア技術の上により良い民主主義が築けるという新たな民主主義への安易な希望を捨てなければならぬ。メディア技術はハーバースの言う開かれた議論空間も、シヤンタル・ムフの言う闘技的闘争の場としてのアゴラも提供せず、無数の虚偽、捏造と憎悪の混沌を拡大する。

だがそれは民主主義そのものを諦めるということではないし、ましてや抑圧や不正や分断に対して諦念を抱くより他はないということでもない。そうではなく、そのような不正義を生み出す構造を超え、この私の価値判断さえも超え、本来の意味で「1」である徹底して異質な他者がこの私の眼前に顕現する、その恐怖と苦痛ゆえに

生まれる存在への確信こそが、メディアの時代における民主主義に強度を与えるのだ。もし民主主義において「1」というものがあるとすれば、それは数学的には破綻した、1≠1という徹底して固執不可能な一人ひとりの人間としての「1」としてしかあり得ない。そして、だとすれば私たちは、既成のシステムにより動員された数の暴力としての合計値の向こうに、低コストで雇われた、あるいはルサンチマンに支配されたそれぞれの「1」を、絶対的な固有性を帯びた一人ひとりの人間として見出すことさえできるだろう。

メディア技術によって民主主義が——諸々の留保がつくにしても——原則的には進んでいくと考えるテクノデモクラシーには、もう一つ決定的な問題がある。そこには、それらの技術を現実のものにするために抑圧と貧困と黙殺のなかで搾取されている無数の他者たちへの眼差しが欠如しているのだ。テクノデモクラシー論者の一人であるジョン・キーンは、メディア技術が発達した現代社会において、新たに現れてきた政治参加の形態をモニタリング・デモクラシーと呼ぶ。

モニタリング・デモクラシーは、デモクラシーの新しい歴史形態で、数多くの多種多様な議会外的な権力監視メカニズムの急速な発達によって定義づけられる、さまざまな「脱議会制」政治のことである。

ただし、それは議会制デモクラシーに対立するのではなく、むしろそれをさまざまなレベルで監視するものとして、Aに機能する。

あるものは何よりもまず、政府や市民社会諸団体への市民インプット（入力内容）のレベルで権力を監視する。別のモニター・メカニズムはもっぱら、政策スループット（処理内容）をモニターし、異議を申し立てる。さらに他のメカニズムが政府の、あるいは非政府の諸組織の政策アウトプット（出力内容）を集中的に監視する。「……」モニター・メカニズムの規模はさまざま、活動空間のスケールもさまざまで、きわめてローカルに活動する「身近な」団体から、大いなる距離にわたって権力を行使する連中を見張ることが目的の、グローバルなネットワークまである。

このようなデモクラシーの形態はメディア技術の発達なくしてあり得ない。歴史に前例のない、インターネットに代表されるこのメディアの「新銀河」は、「究極のグローバル・ネットワーク内での通信を可能にして、こ

の地球に散在する何億もの人びとに購入可能、入手可能となった」とキーンは主張する。そしてモニタリングは無数の「安価なコミュニケーション・ツール（多目的携帯電話、デジタル・カメラ、ビデオ・レコーダー、インターネットなど）の個人、集団、組織への普及によって強化される」。

テクノデモクラシー論に共通する問題が、キーンの議論にも見てとることができる。これらの民民的ネットワークを可能にするインフラやデバイス群は、現実的には極めて高価であり、またインフラが脆弱であればあるほど容易に国家の規制を受ける。ITU（国際電気通信連合・International Telecommunication Union）の二〇一八年の調査によれば、コンゴ民主共和国のモバイル端末契約率は一〇〇人当たり世界平均で一〇三・六パーセントなのに対し、四三・四パーセントに過ぎない。しかもモバイル端末価格は二〇一七年の同調査において世界平均の五倍を超えている。したがってそれらの地域でモバイル端末を持てるのは、そもそも経済的に恵まれている者に限られている可能性が高いし、接続状況や速度を考えれば条件はより悪くなる。

B、デモクラシーが貧困と抑圧のなかにある人びとのためにこそあるべきだとするなら、モニタリング・デモクラシーが、グローバルで非倫理的な経済構造から生み出され、貧困と抑圧を強化するデバイスによって可能になるということ自体、²大きな矛盾を抱えているのではないだろうか。キーンはテクノロジーがあたかも所与であるかのように考えており、それをどのように正しく使うのかにしか関心を持っていない。だから結局のところ、テクノデモクラシー論者にとってのメディアは、それ自体としては批判の対象になり得ない透明なままでも在り続ける。

むしろ、だからといってキーンの主張するところが完全に誤っているということではない。そのようなモニタリングを通してこそ、コンゴの鉱山における悲惨な奴隷労働が暴かれ、正されるきっかけをもたらすことも事実だろう。

ただ、少なくとも私たちは、そのようなモニタリングのシステムそのものが何によって基礎づけられているのかについて、より注意深くあるべきだ。そうでなければ、「一人一票・一人の代表者」という旧来のルールからモニタリング・デモクラシーの「一人・たくさんさんの利害関係・たくさんさんの意見・複数の投票・複数の代表者」という新しいルールへという言葉は、いったい誰にとってのルールなのかという点において、**C** にもならないざるを得ないだろう。

格差によってもたらされた、少なくとも現状それ以外の方法では実現できないアーキテクチャ内において格差を論ずることは、決して無意味ではない。しかしそれは、そのような議論を可能にしている場それ自体に原理的に内在する問題を批判することとは、まったく次元を異にする。私たちが手にしたメディア技術を、あくまで管理も計測も予測も可能なものだと思うのであれば、そこにおいてやりとりされているのは、一連の統計データ群でしかない。要するに、そこに身体は存在しない。だが、すべてが予測可能であること（完全に設計され監視された身体という幻想）と、すべてが仮想であること（議論するこの私の身体という基盤が喪失されること）は表裏一体である。³メディアは私にとって透明でコントロール可能であり、同時に、それは何らリアリティを持たない空疎なものとなる。というよりも、そのときリアリティは、もはやこの私のただかだか選好に矮小化される。

けれども、やはりそれだけではない。ここまで見てきたように、メディアはそのデバイスが作り出され私たちの手元に届けられるその全過程において、ある固有の誰かたちの身体と不可分である。そしてそのメディアを通して何かを伝える行為は、ある固有の誰かの身体が負うリスクなしには実現されない。そしてそこで伝えられる情報はただのCGや統計データなどではなく、ある固有の誰かの身体をともなった具体的な歴史であり、苦闘であり、痛みであるはずである。

D、身体的重要性を主張するのみで十分なわけではない。遺伝子改変に対するハーバーマスの懸念は、その懸念を抱き、議論し得る人間そのものに対する改変であるからこそ取り返しがつかなくなるところにあった。メディアもまたそうなのだ。それは他のあらゆる技術と異なり、私たちがともに語る場そのものを創出する技術

であるがゆえに、共同の原理に対して取り返しのできない影響を及ぼす。

インターネットは純粹に道具的な役割を演じるのだろうか。それともサイバー・スペースでの社会的・政治的なゲームそれ自体——すなわち運動や政治的行為者の形態や目標——に影響を与えるような、ゲームのルールの変化はあるのだろうか。

おそらくいま私たちが目に見えている変化は、単なるルールの変化などではなく、より深い次元における、いわばメディアの展開される場そのものの根本的な変化なのだ。だから、かつて労働運動が組織化されるため「舞台としての工場」や「パブ」が必要であったのと同じ意味において、現代では民主主義を議論するための「グローバルな電子的広場」が必要なのだという程度の認識では、もはや十分ではない。なぜなら、身体の重要性を訴える議論が可能となるのは、まさに身体と不可分のメディアがそれを可能にする場を生み出しているからだ。それゆえ、メディアと身体結びつきが変容するとき、その変容したメディアの場において為されるメディアと身体結びつきについてのいかなる議論も、もはやまったく準拠点を持たないものとなるだろう。

(吉田健彦『メディアオーム ポストヒューマンのメディア論』による)

(注1) ハーバーマス：ユルゲン・ハーバーマス。ドイツの哲学者。

(注2) シャンタル・ムフ：ベルギー出身の政治学者。

問一 傍線部1「その恐怖と苦痛ゆえに生まれる存在への確信こそが、メディアの時代における民主主義に強度を与える」とあるが、「メディアの時代の民主主義」を構想する前提として、どのようなことが求められているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ メディア技術の進展が加速させた社会的な分断の問題と、制度としての民主主義とが抱える課題とを基本的に区別して考える必要がある。

ロ テクノロジーに依存しないかたちで、社会の構造的な抑圧や分断を率直に議論できるような具体的な場所を新たに作り上げていく必要がある。

ハ 民主主義の原点に立ち返り、人々の投じる一票を公平かつ平等に社会の意志決定に反映させていく仕組みを改めて制度化していく必要がある。

ニ メディア技術の進展が不可避免的に増殖させてしまう虚偽や憎悪を、確信を持って乗り越えることができる理性的な個人を育てていく必要がある。

問二 空欄 A C に当てはまる語句の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|
| イ | A | 強制的 | C | 消極的 |
| ロ | A | 効果的 | C | 保守的 |
| ハ | A | 相補的 | C | 皮相的 |
| ニ | A | 対称的 | C | 受動的 |

問三 空欄

B

D

に当てはまる語句の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ B 例えば D なぜなら
- ロ B だから D ただし
- ハ B むしろ D さらに
- ニ B つまり D あるいは

問四

傍線部2「大きな矛盾を抱えている」とあるが、なぜそう言えるのか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ モニタリング・デモクラシーは高価なデバイスを所有することを必須とするため、そこに参加できるのがごく限られた富裕層の人々に限定されてしまうから。
- ロ モニタリング・デモクラシーは人々がテクノロジーを正しく使うことを前提としているので、自分たちが国家や企業に監視されているという発想を持たないから。
- ハ モニタリング・デモクラシーは国家や大企業が提供する産業基盤やインターネット環境に依存するため、それらもたらす貧困や抑圧を告発することが不可能になるから。
- ニ モニタリング・デモクラシーはメディア技術を支える政治的・経済的な構造への反省を欠いているため、そうした構造の中で抑圧されている人々の声を取り入れることが難しいから。

問五

傍線部3「メディアは私にとって透明でコントロール可能であり、同時に、それは何らリアリティを持たない空虚なものとなる」とあるが、なぜそう言えるのか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ それぞれのメディアが原理的に内在させている偏りを批判的に検討することなしに、実際のメディアの社会的な機能を捉えることはできないから。
- ロ メディア技術をあくまで統計的なデータを扱うものと考える姿勢は、現実に生きる人々の主体性を数値に還元し疎外することを意味しているから。
- ハ 現代のメディア環境を出発点に未来の社会を設計しようとする立場は、人間とメディアとの関係が将来どう変化するかを考慮しない点で問題があるから。
- ニ 今後のメディア技術の進展を予測可能であると見なすことは、新しいメディアを作り出す人間の身体を無視している点で抽象的な考え方でしかないから。

問六 傍線部4「メディアの展開される場そのものの根本的な変化」とあるが、ここではどうということか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ インターネットの普及によって多様な人々が集まる機会が増えたことで、既存のメディアを前提とする意志決定の方法が時代遅れのものになってしまっている、ということ。
- ロ メディア技術の進展が社会システムのデジタル化を推し進めたことで、人間の身体もそのような環境に適應するかたちで不可逆的な変化を遂げつつある、ということ。
- ハ メディアとはそもそも人と人との出会わせ接続する装置である以上、メディア技術の革新は、私たちが他者とともに議論する環境自体を大きく変質させてしまう、ということ。
- ニ サイバースペースには、国家や企業などさまざまな集団が働きかけることができる以上、議論の前提となる情報や主張の信頼性が疑わしいものとなってしまっている、ということ。

問七 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ メディア技術が社会の分断を加速させている時代だからこそ、たとえ理解しがたい主張であっても固有の人格を持った人間の声として受け止めていく原則的な立場を徹底させる必要がある。
- ロ グローバルな通信メディアの発達が世界に蔓延する暴力を拡大させたことで、人々は、公共の場で政治的な抑圧や社会的な不正について議論することに疲れてしまっているように見える。
- ハ モニタリング・デモクラシーとは、市民レベルで政府の政策形成や予算配分、法や制度のひずみを監視する仕組みを作り、議会制デモクラシーを抜本的に変革することを目指す考え方である。
- ニ これからの時代に求められているのは、メッセージをやりとりする身体の個別的な痛みや苦しみを情報として議論の場に反映させることができる、開かれたシステムを作り上げることである。

(二)

次の文章は、医療・ケア従事者に向けて書かれた書物の一節である。これを読んで、あとの問いに答えよ（設問の都合上、一部本文を改めている）。

徳は人としての卓越性である、というところから先に進めましょう。「徳の倫理」は個々の行動ないし結果としての活動なり、活動の成果に注目するのではなく、人としての持続的所有力に注目して、これを高めることを目指すという倫理に関する考え方だということです。アリストテレスは、まさに人として優れた人を念頭に、その倫理学書を書いています。

では、〈良い人・優れた人〉が徳がある人であり、人を良い人としているものが、徳¹人としての卓越性（という持続的所有力）であるとするならば、良い人・優れた人とはどういう人のことなのでしょう。

例えば「良い果物」「良い犬」「良い自動車」…なら、どのような果物、犬、自動車を考えることはそう難しくありません。一般的には「人間にとって役立つ」「都合が良い」「好みに合う」といったことが挙げられ、果物であれば、「甘い」「新鮮」「適度に酸味がある」等々を、自動車なら「速く走る」「安全」「乗り心地が良い」…と挙げる事ができるでしょう。逆に「悪い果物」「悪い犬」…についても、一般的に「役に立たない」「使えない」「害をなす」…等々と説明できます。

では人間の場合はどうなるでしょうか。例えば、〈良い人・優れた人〉の持続的所有力として「成績が良い」「仕事ができる」「運動能力が高い」「周囲の人に対してやさしい」「正直」「思いやりがある」「友好的、協動的」…と、いくらでも候補はありそうです。

ここで、どういう基準で評価をしているかに注目して、これらの持続的所有力を見てみましょう。

基準1…社会に役立ち得る能力。しかし使いようで社会の害にもなり得る知識・技術

基準2…人間関係において、周囲から期待される・歓迎される（高く評価される）能力

このように検討を始めてみると、そもそも「人としての卓越性」は、先にいろいろと好ましい性格を挙げましたが、それら全部でなくても、担当部分がある程度備えている人であれば、私たちが考える「良い人」ではないでしょうか。

言い換えると、アリストテレスにしても、中国―日本の伝統にしても、「徳のある（高い）人」とか「人として卓越した人」というと、それほど多くはない、人々の中でとびぬけて優れている、理想の人を念頭に置いているように思われます。

しかし、¹倫理としては、とびぬけて優れている理想を描くのではなく、誰でも通常の成長プロセスを辿れば、成人といわれる頃にはなれる状態を「良い人」と評価するような徳の倫理にしたほうがよいでしょう。否、こうなると「徳」はますます相応しい語ではなくなりそうで、「持続的所有力の倫理」のほうがよさそうです。

振り返ってみると、すでに倫理原則およびそれに由来するような倫理的姿勢は、持続的所有力なのです。それは状況把握に応じて活性化しますが、特に出番がなければ私たちの中で眠っています。しかし、それは私たちが心掛けていることなので、持続的に私たちのうちにあり続けているのです。

ですから一般倫理について、他者危害禁止とか相互扶助奨励、また〈皆一緒〉と〈人それぞれ〉といった倫理的姿勢を身に付け、持続的に私たちが所有するものとしていき、状況に応じて適切に活性化するようになっていけば、社会のメンバーとして「良い人」と評価されることになるでしょう。また、社会はすべてのメンバーにそのなることを要請しているのです。ただし、状況に応じた適切な活性化のためには、倫理的姿勢だけではなく適切な状況把握が伴う必要がありますから、倫理的姿勢と社会における良識を身に付けた人が、「持続的所有力の倫理」が目指す「誰でもなれる良い人」の基準だということになるでしょう。

では、人としての卓越性としての徳に価値を置く「徳の倫理」はやめたのか、というと、そうでもありません。医療・ケア従事者は、その職にある限り、生涯にわたってより良い医療・ケアを目指して自己研鑽²をしていくこ

とでしょう。そのようなプロセスにより、より優れた医療・ケア従事者になり、後進から信頼され、目標とされる立場になっていくのです。

ここで、看護師を例にして、そのような道行きを考えてみましょう。看護師に限ったことではないと思います。が、新人から中堅、ベテランと経験を積むにつれ、単純な一つの行為ではなく、複数の連関するあるいは文脈の違う行為・振舞いを速やかにこなせるようになり、状況を多面的に見て、配慮が行き届いた対応を次々実施するようになり、「熟練した、熟達した」と評価されるようになります。そういう看護師は、文字通り「看護師としての徳を備えている」と言うことができるでしょう。

しかし、そういう熟達した医療・ケア従事者にならないと「倫理的に適切ではない」というわけではありません。誰でもが、本書が描こうとしているような倫理的に適切な姿勢をもち、状況把握が適切にできる医療・ケア従事者になれるのです。

ここで提示しようとしているのは、成熟・熟達と未熟から熟達への道を歩んでいるという評価の問題で、人生を通して到達を目指しましょう、ということなのです。

もう一度看護師を例に出しますと、看護学生が始めから熟練看護師のように「なっていないけれども」わけではないですし、そもそも、なるうと思ってもなれません。学生時代―新人看護師時代―中堅―ベテランと徐々に研鑽を積んで、進んでいくことが大事です。始めから徳¹卓越性を身につけていることは無理で、現場で経験を積み重ねていくうちに身につけていくものです。ただし、すべての看護師が年を重ねるに従って看護師としての徳を身につけるとは限りません。

ここまで提示したことを、医療・ケア従事者のケア・スピリットの生涯発達として、見直しておきます。〈ケア・スピリット〉は、〈進んでケアする姿勢〉に付けた名称です。進んでケアする姿勢を分析すると、「人間尊重・与益・社会的適切さ」という包括的な三つの倫理的姿勢²倫理原則になります。

振り返ってみれば、人は心身の成長に伴い、幼い時期にすでに、助けを必要とする人を見ると心が動かされ、「何かできることをしてあげなきゃ」と対応しようとする情が自然に発現するそうです。それは群れで生きてきた一〇〇万年以上の歴史の中でヒト亜族（の一部）がもつようになった遺伝的性格で、こういう情が生じる遺伝的性質はサバイバルに有利に働いたので、こういう性質をもつ者が生き延びる結果となりました。すなわち、私たち現存人類です。

そういう、助けが必要な人を見分け、助けようとする性格が自然に発現することが、ケア・スピリットの萌芽と言えます。ここでこのような情が発動することが、持続的所有能力としてのケア・スピリットの始まりです。この芽生えたケア・スピリットは、家庭内で、あるいは地域のコミュニティ、学校を通して成長します。単なる情ではなく、情を理性的にコントロールするというのが始まるのです。それを土台として、医療・ケア従事者を養成する課程で、社会として行う医療・ケアに従事する者として必要な要素がケア・スピリットに付加されていきます。例えば、幼かった頃は〈皆一緒〉^a「一辺トウ」の関係におけるケアだったところが、より適切に〈人それぞれ〉をブレンドした姿勢をもってケアに向かうといったことが付加されるでしょう。こうして、ケア・スピリットは、「理によりコントロールされた（ケアに向かう）情」にして「情によって温かくなった（ケアを志す）理」へと成長していきます。

先に熟達した看護師を例にとって徳の説明をしましたが、例えば医師についても同様のことが言えるでしょう。例えば、在宅ケアの先輩医師の活動を見て、その適切さ、細やかな気遣い、包容力^bに感^cメ^dイを受け、「私もあの先生のような医師になりたい」と思うことがあるのではないかと思います。そのように思いつつ、優れた在宅医を見ている人は、その医師の〈ケア・スピリット〉の大きさ、豊かさを見えています。その医師は医学的専門性においても優れているでしょうが、それが、医療・ケアの実践に活かされるのは、ケア・スピリットがその専門性を吸収して一体となっているからでしょう。熟達した医療・ケア従事者の視点に立てば、「これで自分は完成

した」ということはなく、毎日の医療・ケア活動が同時に自己研鑽でもあるのだらうと思います。そのようにして、ケア・スピリットは生涯にわたって成長することとされます。

すでに言及しましたが、状況に向かう姿勢は、状況の把握とペアになって顕在化します。相手の状況を理解することに伴って、〈相手を気遣い、相手とコミュニケーションをしながら、相手にとっての最善を実現するために自分にできるサポートをしよう〉とする姿勢が顕在化するならば、それは、持続的所有力（Ⅱ進んでケアする姿勢・ケア・スピリット）が顕在化したということです。新人の頃は、倫理的姿勢はまだ単純で、状況を把握する努力をしなくては、より具体的な「このようにして差し上げたい」という姿勢にはならないことが多いでしょう。それがいつしか、状況を一目で、あるいは短時間で把握し、いろいろ考えることなく、より具体的な目標選択ができ、直ちに「この場合は、こうして差し上げるのがよい↓こうして差し上げよう」という、より具体的な姿勢になって顕在化ようになります。

このようにして、ケア・スピリットが単純なあり方からより成長したあり方へと進化するのは、すなわち、相手の状況を適切に把握し、自分に何ができるかを適切に認識し、かつ実行する力（持続的所有力としてのケアする姿勢Ⅱケア・スピリット）は、だんだん成長していくのです。

医療・ケア従事者の倫理原則は、自らの医療・ケア活動が社会として行うケアであるために必要なポイントを示すものであって、医療・ケア活動を通して持続的に自らの姿勢としてあるはずのものです。したがって、人間尊重・与益・社会的適切さを一体として心掛ける姿勢は、社会として行うケアのケア・スピリットに他なりません。言い換えると、臨床の倫理原則は、医療・ケア従事者たちの〈進んでケアする姿勢〉（Ⅱケア・スピリット）を、それを構成する要素に分けて示したものです。すなわち、

○ケアの進め方として、ケアする相手を **A** しつつ進める。

○ケアの目的として、ケアする相手にとっての最善を目指す。

○社会として行うケアであることに由来して、社会的にも適切なケアであるようにする。

これらが全体として〈進んでケアする姿勢〉を表しています。

B は、単に結果として現れた行動がどうあるべきかを要請するものではなく、人間の行為の意味に関わり、どのような意図・目的で行うか、どういう姿勢で相手と向き合い、また寄り添うか、についての指針を示すものです。医療・ケア従事者はケア実践において、自らの持続的所有力を顕在化させたケアする姿勢に、倫理原則を体现しているのです。

（清水哲郎『医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学』による）

問八 傍線部1「倫理としては、とびぬけて優れている理想を描くのではなく、誰でも通常の成長プロセスを辿れば、成人といわれる頃にはなれる状態を「良い人」と評価するような徳の倫理にしたほうがよいでしょう」とあるが、それはなぜか。文章全体を踏まえ、その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人間は本来、強い動機を伴わない限り、徳を積むという行動をとることからは隔たった存在なので、「良い人」といった馴染みややすい理想像を提示することによって、誰もが助けが必要な人と向き合いやすくなるから。

ロ 医師や看護師にとって、患者に向き合い、医療行為を行うのはごく日常的な行為なので、常に卓越した境地に至ることを迫るような徳を求めるのではなく、日々の積み重ねによって体得可能なものが望ましいと考えるから。

ハ 医療行為そのものの中に、隣人に対して同情を寄せ、快癒に献身するという徳を積む要素が含まれているために、改めて最善を実現するような倫理の習得を提示することは必要がないと考えるから。

ニ 年齢に応じて学びを深めることの中で、人間は自ずと徳の倫理を習得する生き物なので、学齢期の終了を一つの目標にして、それぞれが思い描く「良い人」へと成長して行くことが自然であると考えるから。

ホ 社会に役に立つ仕事としての医療は、常に周囲との調和が優先される側面があり、医療行為の際に踏まえるべきは、経験や知識といった個人の卓越した能力ではなく、状況に順応する「良い人」であることが優先されると考えるから。

問九 傍線部2「研鑽」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 損得勘定にとらわれず利他的にふるまうこと

ロ 悟りの境地に至るため祈りを欠かさないこと

ハ 勉強や技能を深く極めるために努力すること

ニ 集中力を保つため周囲の影響を遮断すること

ホ 環境に適切に順応しうよう鍛え続けること

問十 傍線部3「すべての看護師が年を重ねるに従って看護師としての徳を身につけるとは限りません」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 看護師の場合、患者や家族と向き合う際に方針を決定するのは担当医師であり、現場での経験が長くなると、ケアについての持続的所有力を発揮することは時として医師との対立を生むことに気付くから。

ロ 看護師によっては、患者への思い入れが強い場合に、冷静な状況判断のためにはそうした共感性が判断の妨げになると先輩や同僚から注意を受けて、倫理的姿勢を軽視することがあるから。

ハ 看護師として臨床の現場で長年職業人として過ごすうちに、医学の技術的な進歩を常に視野に入れて日々の業務に対応することが最優先の課題とされ、医師から倫理的姿勢を問われる機会がなくなるから。

ニ 看護師それぞれによって目指すべき看護師像が異なる場合、経験を重ねるに従って蓄積される知見や獲得される技能に比較して、ケアにおける倫理的姿勢の向上に重きを置く優先順位が低い場合があるから。

ホ 看護師各人が自らの仕事における「人として優れた医療を成し得る徳」とは何かについて答えを出した際には、多様な現場を経て経験値を積んでからのことなので、その途上で徳を問われることはないから。

問十一 二重傍線部 a 「一辺トウ」、b 「感メイ」のカタカナを漢字で表現したとき、同じ漢字をカタカナ部分に用いるものを、次の中からそれぞれ一つ選び、解答欄にマークせよ。

- a 一辺トウ
イ トウ錯 ロ トウ亡 ハ 返トウ ニ トウ難 ホ 浸トウ
- b 感メイ
イ メイ走 ロ メイ柄 ハ 匿メイ ニ メイ瞭 ホ 共メイ

問十二 傍線部 4 「ケア・スピリットは生涯にわたって成長することと思われず」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ケア・スピリットについては、医療従事者が現場で技術的にできることをし尽くした際になお、人として患者に寄り添う在り方とは何かが問われるので、正解はないから。
- ロ ケア・スピリットに関しては、多くの優れた先人たちの事例に基づく英知が残されているので、医療従事者は自身の成長段階に照らしてそれらを理解・吸収することが求められているから。
- ハ ケア・スピリットとは、日々進展する医学的専門性を吸収しながら成長する性格を持った徳なので、医療従事者の人間的な成長と同時にそれが更新される必要上、終わりが無いから。
- ニ ケア・スピリットの実践者たちは、感情と理性をいかにコントロールしながら患者に対するかを日々の業務の中で問われているので、医学の進歩により治療の選択肢が増えることで試され続けるから。
- ホ ケア・スピリットの育成のためには、医学の急速な進歩に対して社会の死生観がどのように変化して来たかを見据える必要がある、医療従事者はそのことを常に自身に問い返さなければならないから。

問十三 空欄 A B に当てはまる語句として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- A
イ 社会として評価 ロ 患者として奉仕 ハ 家族として歓待
ニ 顧客として待遇 ホ 人間として尊重
- B
イ 法令順守 ロ 到達目標 ハ 自主独立 ニ 相互監視 ホ 倫理原則

問十四 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 医療やケアの従事者に求められる「ケア・スピリット」の出発点とは、治療的な行為を最優先にして患者や家族への人間的な情動をコントロールし、科学的な知見が発揮できるように集中する心の動きである。
- ロ 「倫理的に適切ではない」医療行為とは、患者の意思に反した医療従事者による独善的なものを指しており、それは配慮が行き届いた社会性を伴うものだったとしても、今後は戒められることになる。
- ハ 医療従事者に求められる「良い人」の基準は、社会に役立ち、人間関係において高く評価されるといったものであるが、評価の基準は恣意的になりがちなので現場を共有しない第三者からの再評価が必須である。
- ニ 医療の現場では、新人には相手の状態を的確に把握し、自身に何が出来るかを判断する経験が乏しいが、ベテランになるとそれらが備わることにより、持続的所有力としてのケアの力は次第に成長して行く。
- ホ 私達人類は長期間にわたる歴史の中で、互いを気遣い、扶助を必要とする人々を見出し支えるという遺伝的な特性を備えていたが、過酷な自然環境においてそうした傾向は時として種の存続を危機に陥らせた。

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

村上の御時、枇杷の大納言延光蔵人頭にて、御おほえにおはしけるに、少し御けしきたがひたることもおはせで過ぎ給ひけるに、心よからぬ御けしきの見えければ、あやしく恐れおぼして、籠り居給へりけるほどに、召しありければ、急ぎ参りておはしけるに、「年ごろはおろかならず頼みて過しつるに、口惜しきことは、藤原雅材といふ学生をつくりたる文の、いとほしみあるべかりけるをば、

a

蔵人になるべき由をば奏せざりけるぞ。

b

仰せくだされけるに、御倉の小舎

いと頼むかひなく」と仰せられければ、ことわり申すかぎりなくて、人、家をたづねで、通ふ所ありと聞きて、その所にいたりて、蔵人になりたる由告げければ、その家あるじのむすめの男、所雑色なりけるが、蔵人に望みかけける折節にて、「わがなりぬる」と喜びて、祿など饗応せむ料にはかに親しきゆかりども呼びて、営みけるほどに、小舎人、「雑色殿にはおはせず。秀才殿のならせ給へるなり」と言ひければ、あやしくなりて、家あるじ、「いかなることぞ」とたづねけるに、雑色が女のあねかおとうとかなる女房の、まかなひなどしけるを、この秀才しのびて通ひつつ、局に住みわたりけるを、「かかる人こそおはすれ」と家の女ども言ひければ、c それは蔵人になるべきものにはあらじ。ひがごとならむ」と言ひければ、小舎人、「その人なり」と言ひければ、雑色も家あるじも恥ぢがましくなりて、「かかるもの通ふよりかかる事はいでくるぞ」とて、夜のうちに、その局の忍びづまを追ひ出してけり。

d

雲の上まで聞し召しつけむ、「いとほしきことかな。さては出で仕まつらむに、装ひの

しかるべきもかなひがたくやあらむ」とて、内蔵寮に仰せられて、内蔵頭調へて、さまざまの天の羽衣賜はりてぞ参りける。

(中略)

また村上の帝、かの大納言に、「われなからむ世に、忘れず思ひ出ださむずらむや」などのたまはせければ、「いかでかつゆ忘れ参らせ侍らむ」と答へ申されけるを、「折節には思ひ出だすとも、e 常には忘れざらむ」と仰せられければ、「御服を脱ぎ侍らで、この世をおくり侍らむずれば、かはらぬ袂の色に侍らば、忘れ参らすまじきつまには侍るべき」と奏し給ひ、まことにその契りにたがはずおはしければ、後の帝の御時も、色ながら事にしたがひ給ひけるを御覧じて、御涙もおさへあへず悲しませ給ひけるとぞ。

かの大納言の夢に先帝を見たてまつりて、作り給へる詩聞え侍りき。「夢のうちにもし夢のうちの事を知らましかば、たとひこの生を送るとも早くは覚めざらまし」とぞ覚え侍る。「夢と知りせばさめざらましを」といふ歌の同じ心なるべし。

(『今鏡』第九による)

問十五 傍線部 A「籠り居給へりける」、B「参りける」、C「悲しませ給ひける」の動作主体として、最も適切なものをそれぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。同じものを複数回選択してもよい。

- イ 延光 口 藤原雅材 ハ 小舎人 ニ 内蔵頭 ホ 村上帝 ヘ 後の帝

問十六 傍線部①「文」、②「忍びづま」の解釈として、最も適切なものをそれぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- ① イ 訴状 口 手紙 ハ 和歌 ニ 漢詩 ホ 論文

② イ 我慢を重ねてきた妻

- 口 こっそり恋人と逢っていた女
ハ 隠れて通っていた男
ニ 世間から隠していた娘婿
ホ 陰でまかないをしていた女房

問十七 空欄 a に入る語の最も適切な組み合わせを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|------|---|------|---|------|---|------|
| イ | a | など | b | いよいよ | c | やがて | d | かつは | e | よも |
| 口 | a | よも | b | やがて | c | にはかに | d | げに | e | よも |
| ハ | a | など | b | かつは | c | いよいよ | d | いかでか | e | やがて |
| ニ | a | など | b | やがて | c | よも | d | いかでか | e | いかでか |
| ホ | a | いかで | b | よも | c | いかでか | d | やがて | e | など |

問十八 傍線部1「秀才」と同じ人物を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 延光 口 藤原雅材 ハ おとうと ニ 内蔵頭 ホ 家あるじのむすめの男

問十九 傍線部2「装ひのしかるべきもかなひがたくやあらむ」の解釈として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 結婚のために用意する衣装も十分に整えられないだろう。
口 妻がおらず日常の衣装もどうしたらよいかわからないだろう。
ハ 妻のための天の羽衣のような衣装も用意できないだろう。
ニ 蔵人としてどのような衣装が意にかなうかわからないだろう。
ホ きちんとした蔵人の衣装も思い通りに準備できないだろう。

問二十 傍線部3「思ひ出ださむずらむや」の解釈として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 思い出そうとするだろうか。
- ロ 思い出すべきではないだろうか。
- ハ 思い出さないということがあるだろうか。
- ニ 思い出すのはむずかしいのではないだろうか。
- ホ 思い出さないのではないだろうか、いや、思い出すだろう。

問二十一 傍線部4「奏し」の敬意の対象は誰か。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 延光 ロ 藤原雅材 ハ 村上帝 ニ 後の帝 ホ 語り手

問二十二 傍線部5「夢と知りせばさめざらましを」は『古今和歌集』のある歌を指しているが、その作者は誰か。次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 紀貫之 ロ 在原業平 ハ 小野小町 ニ 村上帝 ホ 藤原高子

問二十三 本文の内容についての説明として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 帝は藤原雅材が作った「文」に感心し、それを延光に語り聞かせた。
- ロ 蔵人所の雑色は自分が蔵人に任官したと思いきみ、縁者達を呼び集めた。
- ハ 藤原雅材はある女のところに通っていたが、蔵人になってからは通わなくなった。
- ニ 延光は帝の亡き後、帝を忘れないようにするため、しばらくの間喪服を着続けた。
- ホ 帝は藤原雅材を深く信頼し、自分が亡くなった後にも自分を忘れないかと尋ねた。

(四)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある。

歐陽詹字行周、泉州晉江人。弱冠能屬文、天縱浩汗。貞元年、登進士第、畢闕試、薄遊太原。於樂籍中、因有所悦、情甚相得。及歸、乃与之盟。曰、「至都、當相迎耳」。即灑泣而別。仍贈之詩曰、

驅馬漸覺遠 廻頭長路塵

高城已不見 況復城中人

去意既未甘 居情諒多辛

五原東北晉 千里西南秦

一屨不出門 一車無停輪

流萍与繫瓠 早晚期相 X

尋除國子四門助教、住京。籍中者思之不已、經年得疾且甚、乃危。粧引髻、刃而匣之、顧謂女弟曰、「吾其死矣。苟歐陽生使至、可以是為信」。又遺之詩曰、

3 自從別後減容光 半是思郎半恨郎

欲識旧時雲髻樣 為奴開取鑲金箱

絶筆而逝。及詹使至、女弟如言。徑持歸京、具白其事。詹啓函閱之、又見其詩、一慟而卒。

〔太平広記〕に引く黄璞『閩川名士伝』による

(注) 歐陽詹：人名。唐の人。天縱浩汗：生まれつき豊かな才能に恵まれていたことをいう。貞元：年

号。登進士第：科挙の進士科の試験に合格する。闕試：科挙の後に受ける任用試験。薄遊太原

：仕官のために太原に旅に出たことをいう。太原は首都長安の東北に位置する町の名。樂籍：音楽を生業とする人々。特に妓女(女の芸人)をいう。五原：地名。晋：太原一帯の地域。秦：長

安一帯の地域。屨：くつ。流萍与繫瓠：「流萍」は流れてゆく浮き草。「繫瓠」はつるにぶら下が

っているひさご(ウリ科の植物)。除国子四門助教：国子四門助教という官職に任命される。危粧

：きちんと化粧する。匣：箱に入れる。女弟：妹分の妓女を指す。鑲金箱：金の細工を施した

箱。

問二十四 傍線部1「至都、当相迎耳」はどのようなことを述べているのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 都に着いたら、きっとあなたをお迎えしましょう。
- ロ 都に着いたので、今にもあなたをお迎えするつもりです。
- ハ 都に着いたら、必ずわたしを迎えにきてください。
- ニ 都に着いたので、きっとわたしを迎えにきてくれるでしょう。
- ホ 都に着くのは、あなたをお迎えするときでしょう。

問二十五 傍線部A「去意」とB「居情」は男女それぞれの思いを指している。これらを別の語によって言い表したものと最も適切なものを、以下の語群の中からそれぞれ一つずつ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 高城 ロ 流萍 ハ 門 ニ 長路塵 ホ 頭 ヘ 繫瓠

問二十六 空欄 X に入る漢字として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 見 ロ 身 ハ 会 ニ 親 ホ 合

問二十七 傍線部2「苟欧陽生使至、可是為信」の書き下し文として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。なお文中の「欧陽生」とは欧陽詹のことを指している。

- イ たとひおうやうせいをしていたらしむるも、もつてこれをしんずべきやと
- ロ いやしくもおうやうせいをしていたらしむれば、もつてこれをしんずべしと
- ハ もしおうやうせいをしていたらしむれば、これをもつてしんぜらるべしと
- ニ たとひおうやうせいのつかひいたるも、これをもつてしんとなすべけんやと
- ホ いやしくもおうやうせいのつかひいたれば、これをもつてしんとなすべしと

問二十八 傍線部3「自從別後減容光、半是思郎半恨郎」はどのようなことを述べているのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 別れてからすっかり憔悴してしまいましたが、あなたのことを思ったり、あなたを恨んだりして持ちこたえています。
- ロ 別れてから日月が満ちかけてして時が過ぎましたが、その時間の半分はあなたを思い、残りの半分はあなたを恨んでいました。
- ハ 別れてから家の明かりが消えたかのようになったため、時にはあなたのことを思いだし、時にはあなたのことを憎んでいます。
- ニ 別れてから容貌の輝きが失われてしまいましたが、その原因の半分はあなたへの思慕であり、あとの半分はあなたへの恨みです。

ホ 別れてからすっかり太陽の輝きが失われたかのような気がしますが、それは始終あなたを慕ったり憎んだりしてきたためです。

問二十九 傍線部4に「一擲而卒」とあるが、歐陽詹はなぜそうなったのか。考えられる理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 箱の中に収められた髪と手紙を見て、将来を誓い合った女性が出家してしまったことを知り、自分のせいで彼女が生きる望みを失ったことに動揺したから。

ロ 女性から送られてきた箱の中には、二人の愛のしるしである流萍と繫瓠が入っており、それを見て彼女の思いの深さを知って感極まったから。

ハ 女性の形見である髪と、悲痛な思いをつづつた詩を見て、彼女との約束を果たせなかったことを後悔し、深い悲しみと慚愧の念に襲われたから。

ニ 女性との約束をすっかり忘れて都で気ままに過ごしていたところ、亡くなった彼女の遺髪が自分の元に届けられ、強い恐怖を感じたから。

ホ 病気になり、そのまま亡くなってしまう女性から、裏切りを糾弾する内容の七言絶句とそれを書いた毛筆が届き、悔悟の思いにとらわれたから。

〔以下 余白〕